

共創の場形成支援プログラム 令和5年度他機関等との連携強化による拠点ビジョン実現の加速・充実化支援 選定結果

分野 (採択・昇格年度)	拠点名称	代表機関	連携機関等	実施概要
共創分野 (令和5年度昇格)	カーボンネガティブの限界に挑戦する炭素耕作拠点	東京農工大学	琉球大学	主宰拠点は、稲、木材、藻類を対象に炭素耕作型農林業の確立を目指している。東南アジア諸国での展開を図るために環境に近い沖縄で研究開発を進めるために本連携を提案した。稲作において重要な課題である化学肥料や農薬の利用削減と温暖化ガス発生を低減するための技術を開発する。この環境にやさしい稲作技術を沖縄で実験し、東南アジアに展開する。また、微細藻類の培養においても、安定した気温と日射量は有利であり、「農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」との協力により、養殖に必要なオメガ脂肪酸などを生産する微細藻類の培養に関する研究開発を行う。年間を通じた実験が可能であり、研究開発の加速が期待される。
共創分野 (令和4年度採択)	「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点	東北大学	東北大学 未来型医療創成センター (INGEM) 関西国際大学 株式会社ファムズ	東北大学INGEM/ ToMMoの卓越した研究を進展させて、個人のゲノム情報に基づく医療・健康サービス産業に広く活用され、個人々の健康を支援する自己変革のイネープラとなるパワーツール開発を目指す。具体的には、スマホアプリをベースに、日常の健康・生活・対話ログデータの記録に基づき、健康支援に資するサービスや商材、地域イベント情報、予防啓発のための医学的な情報等を生成AIが、個人々に最適なタイミングでリコメンドする。この伴走型行動変容支援ツールの構築を、先ず、子供の重度近視でハイリスク者の見守り予防支援モデルを地域と連携して実証することで、拠点ビジョン実現を加速する。
共創分野 (令和4年度採択)	レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点	川崎市産業振興財団	東京大学 株式会社イクストリーム 公益社団法人川崎市看護協会 国立医薬品食品衛生研究所	本提案は、内閣府ムーンショット型研究開発制度(MS)目標7との連携により、拠点ビジョン「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」の加速と充実化を図るものである。提案①では、MS目標7のPMである東大医科研・中西教授と連携し、老化細胞を検出し制御する研究開発を進めるとともに、エクソソーム製剤の老化治療への応用を図る。提案②では、東大医科研等と連携し、ELSIへの課題対応、市民啓発や実証フィールド構築を積極展開する。また、コンソーシアムの設立を前倒しし、製品の迅速な社会実装を目指す。これらの施策により、健康長寿の実現に向けた老化制御研究の進展と、拠点の影響力和認知度の向上が期待される。
共創分野 (令和4年度採択)	若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点	横浜国立大学	東京藝術大学 慶應義塾大学 滋賀医科大学	主宰拠点では「生きづらさを抱える若者」の心の課題を包括的に研究する学術領域を立ち上げ、当事者にアンケートやヒアリング調査を行っています。従来の調査では発達障害やパーソナリティ障害を抱える若者の深層ヒアリングに限界があるため、東京藝大の「文化的処方」により当事者の心理的安全性を重視した環境を整え、言葉にしばらい生きづらさを丁寧にくみ取ることで研究を加速します。またLGBTQや摂食障害の若者の生きづらさが深刻化しており、主宰拠点ではLGBTQのヒアリングに有効性を示す慶應大の「アバターテクノロジー」を活用し、当事者の生きづらさを表出しやすい環境を提供します。これにより生きづらさのヒアリング対象を拡張します。
共創分野 (令和4年度採択)	セキュアでユビキタスな資源・エネルギー共創拠点	東海国立大学機構 名古屋大学	長野県白馬村	本拠点では、「無理なく楽しく、資源・エネルギーをみんなで共創し、資源のない日本を資源国へ」という拠点ビジョンを描き活動している。拠点ビジョン実現に向けて、拠点における研究開発の具体化（実証）を早期から実施することが重要となる。そこで、サーキュラーエコノミーや気候変動に対して先進的な取り組みを進めている長野県白馬村と連携し、本拠点が有するCO <sub>2</sub> 回収・メタン燃料への変換技術を中心とした、資源・エネルギーの"変環"実証を行う。本事業の実施により、研究開発の加速を図るとともに、拠点の発信力を強化し、更なるステークホルダーを巻き込むことで、拠点ビジョン実現の加速を図る。
共創分野 (令和4年度昇格)	フォトニクス生命工学研究開発拠点	大阪大学	公益財団法人都市活力研究所 Johnes Hopkins University NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 Willsame株式会社	拠点ビジョン実現に資するスタートアップ促進のために実施している「メディカル・ヘルスケアデバイス スタートアップ経営者候補育成プログラム (TRACS)」の強化、発展を実施する。大阪大学の医工連携の強みを活かしたイノベーション現場での参加型人材育成プログラムに、本学と同様な強みに加えてユニークな人材育成プログラムを持つジョーンズホプキンス大学等と連携し、プログラムの再構築を行い、実施することで、ビジョン実現に資する人材育成を加速する。人材育成プログラム運営事務局の外部機関への設置など、大学の枠組や規制に縛られない人材育成を可能とする実施形態の構築も目標とする。
共創分野 (令和4年度昇格)	Bio-Digital Transformation (バイオDX) 産学共創拠点	広島大学	早稲田大学 一般社団法人日本微細藻類技術協会 (IMAT)	本拠点では、Bio Digital Transformation Transformation (バイオDXDX) で、持続可能な発展を導くバイオエコノミー社会を実現することを拠点ビジョンとして、参加機関 (55 機関) と拠点ビジョンを共有し、3つのターゲット (①食料問題を解決するフード&アグリテック、②バイオDXによる健康福祉の増進、③カーボンゼロを推進するバイオものづくり) を設定し、SDGs 達成へ貢献する。 本提案では、ターゲット3「カーボンゼロを推進するバイオものづくり」を重点課題として、他機関との連携強化による①最終目標の達成時期の早期化、②内容の充実化、③拠点の卓越性の向上を図ることを目的とする。
共創分野 (令和4年度昇格)	資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点	琉球大学	東京大学 長崎大学 北海道大学 公益財団法人流通経済研究所	BRIDGE やCOI-NEXT 拠点と連携し、我が国が世界を先導できる可能性がある小型閉鎖循環式陸上養殖システムの国際標準化・認証 (ハード面)、養殖魚の飼育方法等 (ソフト面) を組み合わせたパッケージ化等により、海外展開の競争力を強化し、拠点ビジョン達成を加速・充実化する。本支援により、①目標達成時期の早期化 (「国内外への沖縄モデルの展開」の2年前倒し)、②ターゲット内容の充実 (国際競争力を伴った海外展開、国際標準化による陸上養殖の世界的普及促進と成長産業への転換の基盤構築)、③卓越性の向上 (一次産業において日本初・発となる国際標準化活動の中心的役割を果たすことで陸上養殖の世界拠点としての国際認知度向上) を実現する。
共創分野 (令和3年度採択)	再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点	金沢大学	金沢大学 物質・材料研究機構 琉球大学	本拠点ビジョン重要項目の1つである『ネイチャーポジティブ素材の開発・社会実装』を加速化するため「分子トレーサー技術と生物多様性科学を取り入れた多糖類バイオマスプラスチック・リデザインの新研究体制」を構築する。生分解性多糖類素材の設計においてポストSDGsの世界目標であるネイチャーポジティブという視点を補強するため、分子トレーサーを用いた多糖類素材の循環性の可視化法、および、環境DNAとバイオインフォマティクス技術を用いた多糖類素材の海洋生分解性・生物毒性・生物多様性の評価法を確立することで、地球環境と生物多様性に配慮した多糖類素材のリデザイン技術を加速化・充実化するとともに、国際研究グループを構築する。

地域共創分野 (令和5年度昇格)	美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点	東北大学	千葉大学 総合地球環境学研究所 立命館大学 株式会社Cultivera	水産養殖と水耕栽培を組み合わせた循環型栽培システム（アクアポニックス）を設置し、アクアポニックスを中心にグリーンジョブの導出とそれを担う地域人材が集う場を構築する。構築から運用に積極的に携わるプロセスに重点を置き、多様な人が集う機能を持つ空間デザインを施すことで、参加者による空間への愛着を醸成し、施設や機能を維持する共創プラットフォームを構築する。またアクアポニックスで採用する養殖・栽培種は、気候変動や沿岸工事等で減少している魚介や生物を主たるターゲットとして、食用生産に向けた増殖の手順の確立を目指し、水耕栽培では耐塩性植物や地域の環境に応じた栽培可能種の抽出を行い、新たな産業の創出を目指す。
地域共創分野 (令和5年度昇格)	リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点	慶應義塾大学	国立環境研究所	本プロジェクトでは、鎌倉市を舞台として、地域で回収した各種資源に高価値を付与し、新たな活用先を連続的に創出する「共生アップサイクル」を推進している。さらに参加する市民が、「消費者」ではなく「循環者」としての新たな充実感やウェルビーイングを獲得できる社会をビジョンとして掲げている。この鎌倉での実践を加速させると同時に、全国の自治体へと活動を波及させていくためには、これまでの「リサイクル率」とは異なる、自治体の総合的な循環成熟度を示す指標の構築が必要である。このため、資源循環に関する専門知と過去から現在までに渡る全国データを有する国立環境研究所を連携機関とし、卓越した拠点としての基盤強化をはかる。
地域共創分野 (令和5年度昇格)	ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点	京都大学	京都工芸繊維大学 群馬大学 京都府農林水産技術センター Symbiobe株式会社	本提案では、京都大学拠点のメンバー拡充に加えて、ムーンショット型研究開発事業（目標4）に参画する群馬大学チームと、京都地域の農林水産事業者を直接支援する京都府農林水産技術センター・農林センターを新規連携機関として加え、地域農業・水産業の昨今の課題となっている農業資材ゴミ及び海洋ゴミ問題の解決に資するテーマを新たに設定する。この拠点拡大により、ムーンショットプロジェクトの先端技術や地域農林水産業の事業者へのアクセスが可能になり、ゼロカーボン材料の産業展開の多角化と拠点の国際的な認知度向上が期待できるとともに、持続可能な地域社会の観点を重視した拠点ビジョンの充実と実現の加速が可能となる。
地域共創分野 (令和5年度昇格)	住民と育む未来型知的インフラ創造拠点	大阪大学	東海国立大学機構 岐阜大学 金沢大学 奈良先端技術大学院大学 神戸大学 大阪府豊能町 株式会社かんこう 株式会社ディタデアス 丸栄コンクリート工業株式会社 地球観測株式会社 大日コンサルタント株式会社 オンキヨー株式会社 住友電気工業株式会社 有限会社太田ジオリサーチ 株式会社コクリエ	本提案の一番のポイントは、成果の融合によって実現する“新たな社会ルール構築（ルールメイキング）”とそのルールを“自治体および国へ提案”するモデルケースの構築にある。これを実現するために、新たに13の機関(内、7機関は新規参画)と連携することで外部の知見や成果を取り入れ、サキガケクラブの知見と融合させると共に実証試験のフィールドを強化し、提案時の研究開発計画に組み込むことができなかった“モデルケース構築の取り組み”を強化することにより、拠点のビジョン実現とその先にある社会変革の早期化を図る。
地域共創分野 (令和5年度昇格)	「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点	長崎大学	北海道大学 琉球大学	拠点ビジョンの加速・充実化に向け、将来の水産業と地域活性化を担う人材育成の体制を北海道大学、琉球大学と連携して構築する。本支援事業では水産養殖産業とそれに関わる地域の課題を多面的・俯瞰的に捉えることのできる人材を育成するためのプラットフォームを、1) 大学・大学院の教育、2) 事業者のリカレント教育、3) 水産事業の起業に向けたアントレプレナー教育、4) 地域に定着する若者を育成する小中高教育を中心に整備する。水産事業の発展に必要な人材を早期に育成し、拠点事業に加入させることによって、ビジョンと目標の達成時期の早期化を推し進めるとともに、養殖業による地域再生のモデル拠点としての卓越性の向上を図る。
地域共創分野 (令和4年度採択)	健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点	弘前大学	一般社団法人ライフインテリジェンス コンソーシアム 京都大学 東京大学 筑波大学 花王株式会社 明治安田生命保険相互会社 協和発酵バイオ株式会社 DMG森精機株式会社 サントリー食品インターナショナル株式会社	COI-NEXT 弘前拠点が研究開発課題として掲げるヘルスケアデジタルツインの開発と実装や、連携データ利活用基盤の構築推進を加速させるため、国内外創業・ヘルスケア領域において最大級のコンソーシアムであるLINCを新たな連携機関に加え、主宰拠点の健康ビッグデータをベースとした国内複数の大規模コホートにおけるデータ相互利用の基盤構築と研究開発促進のためのデータカタログ化、及び統一データ基盤をベースとした予防介入のためのAIモデルを実装した健康アプリの構築と検証に取り組み。また、筑波大学と連携し「睡眠とヘルスケア」研究を健康ビッグデータとシームレスに繋げることで、睡眠関連疾患予測等の社会実装の先駆けとなることを目指す。
地域共創分野 (令和4年度採択)	“コメどころ”新潟地域共創による資源完全循環型バイオコミュニティ拠点	長岡技術科学大学	室蘭工業大学 琉球大学 函館工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 都城工業高等専門学校 沖縄工業高等専門学校 University of Bristol	本拠点のビジョンは、将来に渡り農家が安心して稲作に取り組める環境を実現することであり、「儲かるコメ市場」に成長するには双方の顔が見える商流の構築が鍵になる。生産者と生活者の相互理解と理念の普及を加速させ、コメの価値創造を図るため、本申請では、国内外の拠点や高専等との連携による取り組みを2つ提案する。1つは「“おコメ”の商流をまるごとプロデュースする」ことを目的に、商品の市場投入を試みることで及び流通手法を検討する。この中で農家の「八百万の慶」の理念をしっかりと発信する。もう1つは「田んぼから始まる日本の発酵復活」として発酵による低等級米を原料にした高付加価値品の生産に資する研究開発を実施する。
地域共創分野 (令和4年度採択)	地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点	東海国立大学機構 名古屋大学	鹿児島大学 東海国立大学機構 岐阜大学 鹿児島県知事 一般社団法人サステナブル経営推進機構	拠点ビジョン実現の加速・充実化として、鹿児島県知事や鹿児島大学等と連携・協働し、沖永良部島を実証フィールドとして『みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会』の実現を目指す。令和4年に環境省の認定する脱炭素先行地域に選定された知事町では、九州電力送配電の内燃力発電所に依存し、島内の電力需要制約がある状況の中で、カーボンニュートラルに配慮した持続可能なモビリティが求められている。先進技術による革新的移動手段の提供（電動化自動運転の導入）等により、地域モビリティを充実させ、島民の移動を支援するマイモビリティのシステムデザインを実装し、連携・協働による地域共創を実現する。
地域共創分野 (令和3年度採択)	こころとカラダのライフデザイン共創拠点	北海道大学	横浜市立大学 琉球大学 武蔵野美術大学	拠点ビジョンの実現の確度の向上、加速を図るため、現行の本拠点の主な対象である意思決定できる若者のみならず、生きづらさを抱えた若者も含めてアプローチしていくための調査を行う。また、岩見沢市、北海道に加えて、結婚や妊娠等に対する理解や社会環境が異なると考えられる沖縄県と横浜市との間で地域特性の違いを把握するための調査を行い、若者のこころとカラダの変化による健康影響の詳細把握をめざす。さらに、美術大学の持つアート・デザイン教育を通じて創造的思考力を高めるための手法の調査等を行うことで、美術・芸術大学を有しない北海道をはじめとした地域において若者が自分らしく生きることを後押しする方策の検討等を図る。